



加藤尚武／編
環境と倫理 自然と人間の共生を求めて 新版

四六判 283頁 定価1,800円+税
 発行所：(株)有斐閣
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
 TEL 03-3264-1315
 ISBN4-641-12266-0 2005年発行

【評者】『循環とくらし』編集部

『環境と倫理 自然と人間の共生を求めて』新版は、1998年に初版が出た後、京都議定書の発行や温暖化に伴う気候変動の再評価等、環境をめぐる理論的な状況の変化に対応すべく改訂版として2005年に発行された。大学の講義のテキストとして利用されている本シリーズでは、12章のテーマによるアプローチから環境倫理学の全体像が紹介されている。各章にはサマリーやキーワード等、さらには演習問題も記載され、2018年の今でも、扱うテーマは全く褪せていない。

はしがきの、「自然の生命は後戻りの効かない反応がたくさん仕組まれていて、元に戻すことが原理的に不可能である」との件は、昨今の自然災害の甚大さに襟を正す思いがする。人々の恵みの糧であった自然が取り返しのつかない状態になる前に、また、私たちが未来世代への加害者にならないためにも、環境問題をどのようにして捉え、解決していくべきか。環境倫理学に関心をもって始めようという人には是非読んでいただきたい一冊である。



戸田里江／著
楽々できる生前整理収納
 一片づけて運気が上がる

四六判 192頁 定価1,400円+税
 発行所：(株)さくら舎
 〒102-0071 東京都千代田区富士見1-2-11
 TEL 03-5211-6533
 ISBN978-4-86581-094-3 2017年発行

【評者】鍛冶美行

本誌でも執筆されている、整理収納コンサルタントの戸田里江氏の「楽々できる生前整理収納」は、昨今の「何でも思い切って捨てる」をよしとする、一歩遅れば大量廃棄を促す主張とは、明らかに一線を画しています。一つに、著者は住宅メーカーに勤務されていたことから、「住まい」からの視点を基礎にもっておられること。2つ目は、生前整理をしようと思っている人や依頼される人の心情に寄り添うように、片づけを応援され、一緒にコトに当たられていくこと、とても説得力があり、身近に感じられるのです。

戸田メソッドは、実は、自分軸で、楽しく幸せに暮らすことが目標です。捨てなければならないと焦らず、整理収納テクニックに頼らず、まずは、脳内整理をしてから、5 STEP 整理法を展開されています。他にも、モノ別、場所別に整理法が紹介され、実家の片づけには1章がとられています。「運」を「動かす」片づけをしながら、これからの人生を楽しく設計したい方には是非お薦めしたい書です。



つばた英子 つばたしゅういち／著
 聞き手：水野恵美子 撮影：落合由利子
ききがたり ときをためる暮らし

15.4 x 10.6 220頁 定価740円+税
 発行所：(株)文藝春秋
 〒102-8008 東京都千代田区紀尾井町3番23号
 TEL 03-3265-1211
 ISBN978-4-16-791006-8 2018年発行

【評者】エッセイスト(生活文化地域協同) あざみ祥子

年をとったら田舎暮らしをしたい、自分で土をいじり野菜など作って暮らしたい、そう思い実行している人は珍しくありません。でもねー、とこの足を踏んでいるあなた、ご一読あれ。つばた英子・しゅういちさんのキッチンガーデンと雑木林のある暮らしは、なんと美しく豊かでしょう。原点は英子さんの幼いころの思い出。ものを大切に、食べものも分け合っておいしくいただくのは故郷半田では当たり前。戦後、結婚し都会に出て、しゅういちさんもサラリーマンになり転勤、転職、子育て、手元不如意の時もあり等々、人並みに昭和の時代に翻弄されますがそれも上手に糧としながら、少しずつ、まさに時をたため作り上

げられた今。収穫した野菜や果実は夫婦二人では食べきれません。子どもに送ります。ご近所さんにお分けします。「どうぞご自由にお持ち帰りください」の看板も立てて。圧巻は、レシピ編、本編いたるところにも散らばっている保存の工夫、調理法です。「自給自足」は体力がいります。畑を耕し、樹木を剪定し、果実を収穫する等々、そのための体に合った道具作りから、動きやすい畑の設計などはしゅういちさんの仕事。自然と共生する暮らしの知恵を子どもたちに残したいとメモするのも彼。ずっと、お互いの個性を尊重し、前を向いて生きる80代のご夫婦です(2012年単行本発刊時)。



小手鞠るい／著
ウッドストックの森の日々

15.2 x 10.6 299頁 定価600円+税
 発行所：(株)ポプラ社
 〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1
 TEL 03-3357-2212
 ISBN978-4-591-10914-4 2009年発行

【評者】国崎クリーンセンター啓発施設 所長 鈴木榮一

米国ウッドストックが舞台で、しかもキース・リチャーズが登場するとすれば、ロック音楽がらみの作品と思われるだろうが、ちがうのだ。謎解きは、本書を読んでのお楽しみ。本書には2とおりの読み方がある。一つは「森の豊かな自然を味わう」読み方、そしてもう一つは、巻末の解説(金原瑞人氏)が述べる「アメリカ文化の参考書としての読み方。前者ではウッド

ストックの森に心を癒やされ、後者では欧米人の靴を履く所作、不便を我慢しても頑なに自然を守る人々の暮らしなど、一般に米大国に描くイメージとは異なる、生のアメリカ文化が味わえる。しかも本書は、米国におけるごみの分別やリサイクル、そして「ごみを減らすにはどうしたらいいのか」などにも多くの頁を費やした、本誌読者にとってつけのエッセイである。